

# 「Benesse=よく生きる」を 実現する環境教育、 そして、エコロプロジェクト

Benesse =よく生きる。

未来を「よく生きる」ための環境を創りたい。

そのためには、未来の

担い手である子どもたちへの環境教育は

たいへん重要であると考えています。

環境問題が地球規模で重要な課題となる中、

当社は事業特性を活かした活動として

環境教育の推進を計画・実施しています。

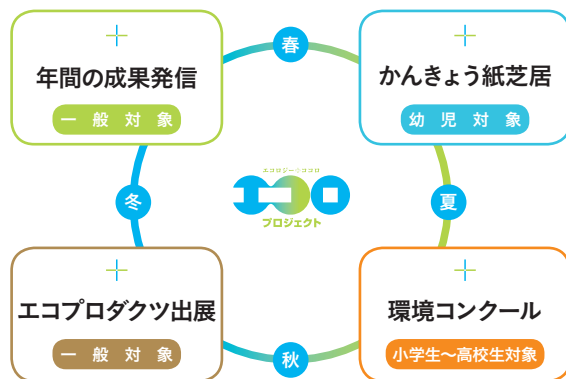
2008年、全社活動として環境教育に取り組む「エコロプロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクト名は、エコロジー+ココロ+プロジェクトを組み合わせた言葉です。本プロジェクトは「子どもたちが環境教育を通じて、環境に配慮することが当たり前になり、楽しく行動できる、そして子どもたちのなかに活動のリーダーが生まれる、そんな世の中にする」とを願い(ココロ=心)として、活動を継続しています。

エコロプロジェクトでは、広くいろいろな年齢の子どもたちに働きかけるために、2009年度は、小・中・高生の環境コンクール、幼稚園・保育園を対象とした「かんきょう紙芝居」、環境イベント参加などを実施しました。

さらに、2009年度は、初年度の企画を深めるとともに、ベネッセの「環境教育」をより多くの人に伝えていくため、発信力の強化に取り組みました。

また、プロジェクトを継続的に進めていくための年間の枠組みをつくりました。



▲2009年度エコロプロジェクトのフロー

# 幼児が紙芝居を通して 環境を学び、 行動を約束する。

## かんきょう紙芝居

2009年度かんきょう紙芝居参加園数

**3,604**園(全保育園の15%)

ベネッセのかんきょう紙芝居「モッタイナイむらのモッタくん」は、全国の幼稚園や保育園に無料でお届けしています。

紙芝居には、家庭用教育冊子「かんきょうかくにんブック」と、園で貼るポスター「4つのやくそく」がセットされ、園児たちが幼稚園や保育園で環境について学ぶだけでなく、家庭に戻ってからも復習できるように作られています。

園児たちは、紙芝居を見た後、自宅で教育冊子を開いて、家族と学んだことを振り返ります。その結果、環境に配慮した行動(ものは大切に使う、見ないテレビは消す、水を止めて手を洗う、食べ物を残さない)として約束し、園で大きなポスターにそれぞれが葉っぱのシールを張る、という構成になっています。

2008年度は全国の幼稚園に、2009年度は全国の保育園に配布し、広く活用を呼びかけました。



▲左から、紙芝居、「4つのやくそく」、Webサイト

## 子どもたちと一緒に 未来の環境について考える

### Message from staff

2009年度は昨年を上回る申し込みがあり、合わせて全国約7,000園に「かんきょう紙芝居」が行き渡ったこととなります。プレスリリース後には、各社新聞等にも掲載され、ボランティア団体や、地域で「読み聞かせ」をされている方などからも、「ぜひ送ってほしい」「地域の子どもたちを集めて読んであげたい」といったお電話をたくさんいただきました。環境に対する意識が定着し、子どもたちにも考えてほしい、という思いが高まっているのを感じました。これからも、子どもたちとともに考える機会を継続して持っていきたいです。

(かんきょう紙芝居担当 幼児商品開発部 工藤智美)

# 小・中・高校生が 環境を考える機会を 広げる、深める。

## 環境コンクール

### 2009年度環境コンクール応募件数

小学生	204	件(276)
中学生	4,617	件(635)
高校生	351	件(168)

---

計 **5,172** 件(1,079)

※( )内は2008年度の件数。

2009年度の環境コンクールは、未来を担う子どもたちが、一人でも多く「環境」について関心を持ち、考える機会をつくることを目的として、昨年に引き続き、小学生（5・6年生）、中学生、高校生を対象に実施しました。

応募期間は子どもたちの夏休みを中心に設定。7月1日に一斉に受付を開始し、9月に順次バ切りました。今年度は「中学生環境コンクール」で、より参加しやすい、アンケートを活用した募集も行い、応募件数が大幅に増え、子どもたちが環境を考える機会を広げることができました。

また、ベネッセの環境コンクールでは、子どもたちが環境を考える機会を広げ、また考えを深めてもらえるように、小・中・高の各サイトで環境情報の提供などの仕掛けが組み込まれていることが特徴です。



▲コンクールサイトと連動して、子どもたちが環境を考えるためのコンテンツがつけられています。左から、小学生、中学生、高校生向け。各サイトには、エコロプロジェクトサイトのトップページから入れます。  
<http://www.benesse.co.jp/kankyo/ecolo/>

## 全国の高校生に当事者のひとりとして 環境問題を考える契機を与えたい

Message from staff

2008年度にエコロプロジェクトを立ち上げるにあたり、高校生向けには小論文課題としましたが、実際に作品に触れると、環境問題についての知識に乏しく、身近な事象と環境問題が結びつけられない高校生が多いと感じました。そこで、2009年度はコンクールに加え、環境問題の基本的な事実や、環境問題に直面する現場を疑似体験できるWebコンテンツ『エコスタ～高校生環境研究室』をリリースしました。『エコスタ』で身近な問題を意識し、自分の考えや行動をコンクールで発信し、さらに同世代の様々な論文に触れて環境問題について深める…、というようなサイクルを実現できればと思っています。

(高校生環境小論文コンクール 高校生商品開発部 掛川 雅之)

# 子どもから大人まで、 ベネッセの環境教育の 現在を、伝える。

## 「エコプロダクツ」出展

### 2009年度エコプロダクツ ブース来場数

エコプロダクツ東北2009 2,435 名

エコプロダクツ2009 5,000 名

---

計 7,435 名

ベネッセでは、商品・サービスの中に「環境教育」のコンテンツを組み入れています。社会からどのくらい認知され、評価されているのだろうか？ 2009年度のイベント出展では、この回答を得ることも含めて、現在実施されているベネッセの環境教育を「見て、触れて、体験できる」プレゼンテーションを行いました。

2009年10月(15日-17日)の「エコプロダクツ東北2009」、12月(10日-12日)の「エコプロダクツ2009」。仙台と東京有明で開催された2つの環境展で、多くの皆様と時間をともにしました。

展示では、こどもちゃれんじ、進研ゼミなど、環境教育、環境情報をコンテンツとする商品・サービスをパネルや見本誌、映像等でご紹介したほか、体験イベントとして、サイエンス教室によるプラスチックのリサイクル実験(19回)、ワンダー体験クラブによる動物・森・人間の関係を考えるレクチュア(東京のみ2回)を、主に小学生対象に開催しました。



▲左から、ブース内の展示、サイエンス教室の実験、ワンダー体験クラブのレクチュアの様子。

### きらきらと輝く子供たちの目に期待します！

Message from staff

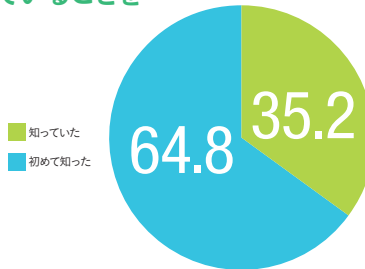
サイエンス教室では、子どもたちに忘れられない体験をしてもらうことで、環境への意識を強く持ってもらうことを目指しました。そのため、研究者が身につけるような本格的な白衣を着て、本物の実験器具や薬品を使って一人ひとりにリサイクルの実験をしてもらいました。実験に取り組む子どもたちの目は真剣そのもの。輝いていました。子どもたちの感想には「リサイクルの大切さを知りました」「これからはもっとリサイクル活動をしたいと思います」などうれしいものが多くありました。将来、もしかするとこの子たちの中から環境問題に関わる仕事をする人が出てきたりするのではないかな、という期待もしています。

(エコプロダクツ2009・サイエンス教室担当 教育事業本部 柳田 真樹子)

# ベネッセに言いたいこと。

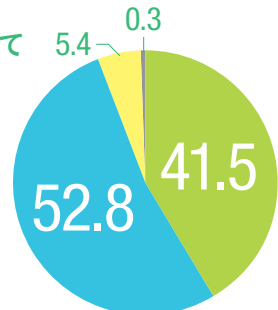
Q1.ベネッセが  
環境教育を推進していること  
をご存じでしたか？

※エコプロダクツ展での  
来場者アンケート。



Q2.ブースをご覧になって、  
ベネッセの環境教育の内容について  
どう思われましたか？

- とても評価できる
- まあ評価できる
- どちらでもない
- あまり評価できない
- 評価できない



「エコプロダクツ2009」で、来場の皆様にベネッセが環境教育を推進していることをご存じか、また、期待されるものになっているかをお伺いしました。「まだまだ、もっとも」と、ベネッセが教育を通して環境問題に貢献できる余地があると受け止めています。

皆様からいただいた声をひとつひとつ大切に、これからの活動に活かしてまいります。

## 🗨️ エコプロダクツ展(東北、東京) でいただいたみなさまの声

### <当社の活動への共感>

- 将来に向けての活動は感動できる。子供たちに伝えるメッセージに説得力がある。  
(20代 女性)
- 直接教育という分野に踏みこまれているベネッセがそのツールを活用して環境に取り組むというのは、将来へ向かってのすばらしい取組だと思う。(20代 男性 会社員)
- 自然と人間とのかかわりについて学ぶことが大切…その糸口を作っていることに共鳴します。どんどん拡大して欲しいものです。(70代 男性)
- 勉強だけでなく、自分たちの生活環境の問題についても、とりあげてもらっている事に、感動した。(40代 女性)
- 環境問題への取り組みで、大事なことは、多くの人、子供たちに自分の身近にある問題を知り危機意識を持ってもらう、情報を知ってもらうことだと思うので、ベネッセの取り組みに共感しました。(20代 女性 学生)

### <子どもたちに対する教育の評価>

- 小さい子供の頃から環境(エコ)という事を教えるのは大変良いと思う。(30代 男性 会社員)
- 子どもたちへの環境教育はとても大切です。そこに力を入れていることは、企業として素晴らしい。大人も環境について真剣に考えなければと思わされます。(40代 女性 会社員)
- 子どもへ分かりやすい環境教育の場をいろいろな方面で設けていて、すばらしいです。  
(50代 女性 公務員)
- 低年齢層はとても素敵だと思います。若干年齢が上がっている子供達の教育方法ももう少し環境に興味をわくものにしてもいい気がします。(40代 女性 会社員)

### <活動を伝える必要性>

- 娘(大学生)が子供の頃「こどもちゃれんじ」にお世話になりました。当時は思い出し又、現在は環境教育にも力を入れている事を知り嬉しく思いました。(50代 男性 会社員)
- 実際に「こどもちゃれんじ」を利用していますが、どういう理想でどういう取り組みをしているのか知りませんでした。知ることができてよかったと思います。(40代女性)
- 環境教育に取り組んでいるとは知らなかった。小さい頃から環境について、学び、実践する機会をつくれると、自然に環境対応できる人が育つと思う。良い取り組みですね。  
(20代 男性 会社員)

### <もっともっと、という励まし>

- 環境教育についてもっとベネッセなら多くのことができると思う。(20代 女性 学生)
- しまじろう、学習書、環境体験との組み合わせは、ほかの企業にはまねのできない子供の年齢からの環境教育が出来ると思います。もっともっとこれを前面におしだしてほしいです。  
(30代 男性 会社員)
- もっともっと可能性や、やるべきことをさがし出してください。すべての子供たちに考えてもらうことによって未来が変わるんだから。(40代 男性)
- 子供達の環境教育は大変に大事なことです、これからも力を入れてください!  
(50代 男性 会社員)

**環境教育を当社が行っていくことに対して、共感と期待が寄せられています。さらによりよい活動の実践に努めてまいります。**

## ●かんきょう紙芝居をご活用いただいた保育園、保育所から寄せられた声

- 園としてエコに今年度取り組んでいるので良いチャンスを与えてもらいとても助かりました。  
(東京都 保育園)
- “かんきょう”や“エコ活動”について、とても分かりやすく、又、皆で本気になって考えることのできる内容の教材で、エコ活動について、更に理解を深める、良いキッカケ作りができた。  
(岩手県 保育園)
- “環境”と言う言葉は難しいが、日常子ども達がしているもったいない事に目を向ける事が出来たし、お家の方とのコミュニケーションを取る冊子もついていたので保育所と一緒に進められるのが良かったです。(兵庫県 保育所)
- とても、わかりやすい内容で、こどもたちも興味を持ってみる事ができました。見終わった後は、「水を出したままにしない」「手洗いの時は水をとめて洗う」などのエコに関する意識も高まったように思います。(熊本県 保育園)
- 環境問題が社会問題となっている時代に子ども達が「かんきょう」について知る良い機会となりました。先ず園でできる事を先生達と考えていきたいと思います。(愛知県 保育園)
- 普段の生活の中で「もったいないもの、ことはないか」をもういちど見直すいいきっかけになりました。(和歌山県 保育園)
- 子どもたちが何気なくしている自分の行動を振り返り、環境とのつながり、その責任を感じてくれるといいなと思い、それを伝えるのに適した素材であった。(愛知県保育園)
- 環境の大切さについて具体的にわかりやすく子ども達にもわかりやすい内容だった。我が園でもペットボトルのふた集め、割り箸あつめ、ごみの分別などに取り組んでいるのでとても良い教材となった。(鳥取県 保育所)

かんきょう紙芝居は、子どもたちに「もったいない」ということを考えさせるにはわかりやすい教材であり、子どもたちの行動に結びつけたものと私たちは考えています。

## 2009年度エコロプロジェクトの活動

2009

- 2月 エコロプロジェクト年間プランの確定
- 5月 全国の園に「かんきょう紙芝居」のご案内送付
- 7月 環境コンクール応募受付開始(～9月)
- 10月 「エコプロダクツ東北2009」出展
- 11月 環境コンクール審査発表
- 12月 「エコプロダクツ2009」出展

2010

- 3月 「かんきょう紙芝居」報告サイトオープン
- 2009年度「エコロプロジェクト」報告書制作
- エコロプロジェクト・サイトリニューアル

# ベネッセコーポレーションの環境方針

環境問題は、地球規模で重要な課題であり、環境活動を積極的に推進することは企業の果たすべき義務と考えます。当社の企業理念である「Benesse＝よく生きる」を実現する上でも、「環境」を経営の重点課題のひとつと位置づけ、教育を軸とする当社の事業特性に合わせて積極的に推進します。

活動にあたっては、環境関連法規やルールなどを遵守するとともに、環境マネジメントシステムや環境パフォーマンスの継続的な改善を図りながら、事業に従事する者一人ひとりが主体的に活動することを旨とし、以下の内容を実施します。

## (1) 商品・サービス、営業活動等における環境配慮の推進

商品・サービスはもとより、営業ツールに至るまで、安全で環境負荷の少ないものを提供するため、有害物質の不使用、省資源化を始めとする環境配慮設計を推進していきます。

## (2) 省エネ、廃棄物の削減、リサイクルの促進

事業活動にあたっては、新技術の導入などにより、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクルの推進を実施し、環境汚染の予防に努めます。

## (3) 社会に対する働きかけ

当社の事業特性を活かした環境教育の推進、環境情報の発信、地域活動の実施などを行い、社会や地域と協働して環境活動に取り組みます。

この環境方針は従業員及び当社の事業活動に関与する全ての人に周知するとともに社外にも開示します。

2008.3.1改訂 代表取締役社長 福島 保

「2009年度エコプロジェクト」報告書をご覧いただき、  
誠にありがとうございました。

## 株式会社ベネッセコーポレーション

環境活動事務局 〒206-8686 多摩市落合1-34 2010年3月発行

\*ベネッセコーポレーションの環境活動は以下のサイトでご覧いただけます。